

「写真絵はがき」が語る歴史

足立 龍枝

日韓併合から 100 年の今年は、それにちなんだ講演会や写真展などのイベントが続いている。中でも、京都の高麗美術館で行われている「『写真絵はがき』の中の朝鮮民俗」展は、日韓の近現代史に关心のある人たちには、必見の企画展だ。

キャッチフレーズは「百年前への時空の旅」。日本の植民地時代の遅りすぐった写真絵はがき 300 枚などが展示されている。

日本の絵はがきの歴史は 1900 年 10 月 1 日に私製はがきの発行が許可されたことから始まる。

韓国でも併合のころから、韓国の風俗やできごとが写真絵はがきとなって発行された。中でも人物を写したものには台湾や旧満州にないすぐれた写真が多い。

発行所は「日之出商行」がほとんどで、ほかにハト印の大正写真工芸所はコロタイプ（ガラス乾板を使用した印刷）絵はがきを発行していた。また総督府も施政記念に絵はがきを発行していた。

「日之出商行」は京城（現ソウル）の中心街本町で 1900 年代早期に開業し、絵はがきや文房具を売っていた。私の持っている絵はがきもほとんどが日之出商行で、日之出商行が「朝鮮風俗」をテーマとして発行した「白衣の人々」「市場」「せんたく」「砧（キヌタ）うち」「ものをうる人」「ものをはこぶチゲッケン」「キーセン」などに当時人気があった。

モノクロを手作業によって部分彩色したり、印刷技術によるカラー加工はがきもあり、それらはかなり出回つていたようだ。



絵はがき展
のポスターに
も使用され特
に目立っていたのは、1912 年（大正元）に日



京都
高麗美術館

本に送られてきた景福宮光化門前の絵はがきだ。向かって左側にある台座に置かれた石獣（想像上のヘテ）の頭の上に乗っている民俗衣装の少年をいた写真。手前近いところから広角レンズで写しているのだろうか、光化門の屋根より高く見える。周りにいる 30 人ぐらいの人々の自然な様子から見ると、カメラマンが偶然にとらえたシーンのように思われるが、演出かもしれない。

この企画展の目玉というべきものは、朝鮮から日本へ送った絵はがきだろうか。日露戦争後 1904 年に 4 万人だった在朝日本人が、1910 年には 17 万人に急増している。その人たちや日本からの旅行者が日本へ送った便りである。

普通、使用済みのはがきは値打ちがないのだが、歴史資料としてのはがきは「使用済み」の方が価値が高い。日本人が何年ごろ朝鮮・朝鮮人をどう見ていたかを知ることができる貴重な資料となる。

先の少年の後の光化門を撤去から守った柳宗悦が、慶尚南道晋州（テンジュ）から、同じ白樺派の仲間、志賀直哉に宛てた絵はがきが展示されていた。住所は千葉県我孫子町。志賀直哉が父親と仲たがいをして、新婚夫妻の住居が定まらなかつた時、柳の世話で近くに住み、家族ぐるみの付き合いをしていたことがあった。



写真は庶民の使用する壺や壺を売っている風
景で、柳が壺にこだわっていく最初の朝鮮旅行だ
った。

他に、歌人若山牧水や浅川巧のはがきも見
ることができた。

若山牧水が知人に宛てたはがきには「やれやれ、やっと朝鮮に入りました、とても内地より愉快です、これから本気になります、ボク」また、門下生の歌人へは「朝鮮は気に入った。入りすぎて大音楽（下痢の意）を奏し、今日就床、明日、大田に赴き、福島君と逢ふ。ペコペコなれどゲンキなり」とある。

浅川巧は、故郷の 12 歳の少年に、朝鮮の風物を分かりやすく伝えている。

高麗美術館の学芸員の中に、絵はがきコレクター山本さんがいることも収集に大いにプラスになったと思う。山本さんは特に使用済みのはがきに目を向けており、ソウルで買った使用済みのはがきを日本で調べてみると差出人が有名人だったということもあったそうだ。

エアーメールでない時代に、釜山から京都まで 4 日間で郵送されていたことも着信スタンプで分かった。

はがき以外の展示では京都の鳥瞰図絵師吉田初三郎の描いたカラーの「朝鮮大図絵」104 × 25.5 センチが目立った。西海（東シナ海）から眺めているように描かれている。吉田は奇才といわれ、朝鮮総督府からの委嘱で、足かけ 3 年をかけ朝鮮の鳥瞰図を 27 点も製作した。この旺盛な創作力を支えたのは、平壤（ピョンヤン）で知り合った美貌の名妓吳山月（オ サノル）と親しくなったことだといわれている。

吳山月は、絵はがきに何回も取り上げられるぐらいたる人気だった。はじめのころ、風俗・風景が主だった日之出商行や大正写真工芸所も競うように朝鮮美人、つまり妓生のはがきを次々と発行していくよう、このころは妓生のプロマイドが多数発行されている。



日本でも芸者の写真はがきが発行され人気が
あった頃で、明治生まれの父親が 1 枚の写真はが
きを大事に引き出しに入れていたのを思い出す。

展示室を入ってすぐ左側にあった「韓国写真
帖」が目に付いた。家に同じのがあるからだ。2
0 年ぐらい前に古本市で買ったもの。日韓併合前
1905 年に発行され、朝鮮人を細かく紹介して
いる。

朝鮮・朝鮮人の風俗習慣を表すのに、こんな目
で朝鮮人を見ていたのかと思うような箇所が出
てくる。しかし、これが事実だった。

天神さんの露天やデパートの古本市で、木箱に
古い絵はがきを無造作に入れて、売っていること
がある。朝鮮・旧満州などにこだわって探してい
るが、国別・時代別になつてないのでひと苦労。
立つたままでは歳とともにしんどくて大変だ。京
都「みやこめっせ」の古本市に行ったときには國
別に分けてある店があつて大助かりだったが店
名は覚えていない。

最近は絵はがき探しから遠のいているが、イン
ターネットでも求められる時代になってきた。し
かし、欲しいのは 1 枚 2000 円前後と高くて買
えない。企画展でしっかりと見ておかなければ。

この企画展は百年の時空を越えて、植民地とい
うのはいったい何だったのかを見つめ直す良
い機会になったと思う。

↓ 鳥瞰図 朝鮮大図絵

